

系統別病態診断・臨床実習入門（全般）

【通年】集中

八木 秀介、赤池 雅史、医学部教員

ここで紹介された資料は**蔵本 2 階授業サポートナビコーナーにあります**ので、どうぞご利用ください。

系統別病態診断（PBL チュートリアル）につきましては、各コース別の授業サポートナビも参考にしてください。

図書

授業のテーマをつかみ事前学習や復習を効率的に進めるために、これらの図書を読むことから始めましょう。

□ **医療面接技法とコミュニケーションのとり方（新基礎臨床技能シリーズ） / 福島統編集**
メジカルビュー社 2009

→ 医療面接とコミュニケーションとの関連、特に行動科学に基づいた解説が非常にわかりやすく書かれています。

【492||Sh】

□ **診療録の記載とプレゼンテーションのコツ（新基礎臨床技能シリーズ） / 酒巻哲夫、阿部好文編集**
メジカルビュー社 2009

→ 医師にとって最も重要な能力である診療録記載とカンファレンスでのプレゼンテーションについて実践的に書かれており、医師になってからも非常に役立ちます。

【492||Sh】

★ 蔵本 2 階生命科学閲覧室にもあります

□ **身体診察（診察ができる:vol.1） / 医療情報科学研究所編 メディックメディア 2023**

→ 医療面接や身体診察手技について解剖・生理と関連付けながら具体的にわかりやすく解説されています。医師になってからも非常に役に立ちます。

【492.1||Sh||1】

□ **考える技術：診療でエビデンスを使いこなす 第4版 / スコット・スターン、アダム・シーファー、ダイアン・オールドカーム著；竹本毅訳 日経BP社 2020**

→ 医師にとって最も重要な能力である「臨床推論」について、他の書籍では得られない重要なポイントが、わかりやすく記載されています。第1章を読むだけでも価値があります。

【492.1||St】

□ **ベイツ診察法 第3版 / リン S. ビックリー、ピーター G. シラギ著；有岡宏子、井部俊子、山内豊明監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル 2022**

→ 解剖学、生理学とリンクした身体診察法について学修できるグローバルスタンダードの教科書です。

【492.11||Bi】